

KYOSAI

The Kaleidoscopic Painter: Works from the Kawanabe Kyosai Memorial Museum

4.26(土) 2025. 6.1(日)

5月12日(月)に
一部展示替えを
行います

◎休館日:月曜日(祝・休日の場合は開館)、5月7日◎開館時間:10時~17時(入館は16時30分まで)◎入館料:一般1,600(1,400)円、高大生800(600)円、小中生400(200)円 ※ ()内は前売り・20名以上の団体料金[前売り券は1月18日から4月25日まで、中之島香雪美術館、フェスティバルホール・チケットセンター、主要ブレイガイド、コンビニエンスストア、公式HP(オンラインチケット)で販売します。]◎主催:公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社◎協力:公益財団法人河鍋暁斎記念美術館

中之島 香雪美術館
Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

夜間特別開館
開催日:2025年5月2日(金)、
16日(金)、30日(金)
時 間:10時~19時30分
(入館は19時まで)

河鍋暁斎記念美術館所蔵

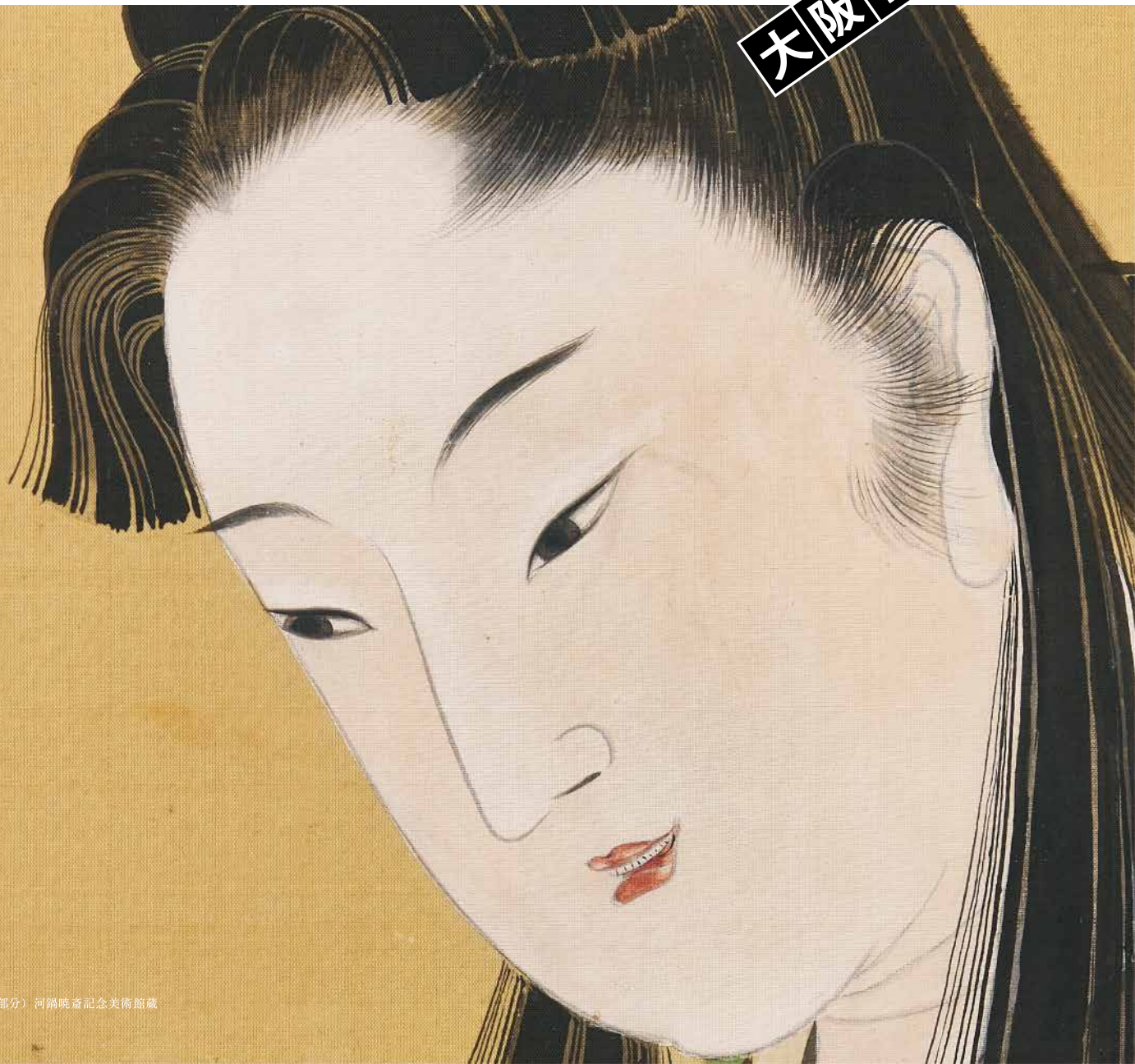
暁斎

萬よろず絵師

すべてを
描く

特別展

大阪初開催!



画技、縦横無尽!!

特別出陳

《枯木寒鴉図》榮太樓總本舗蔵



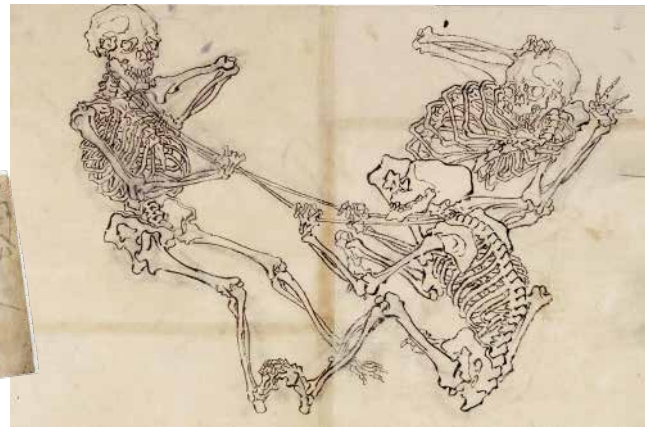
《吉原遊宴図》河鍋暁斎記念美術館蔵



《美人観蛙戯図》河鍋暁斎記念美術館蔵



《骸骨の首引き 下絵》河鍋暁斎記念美術館蔵



《鳥獣戯画 猫又と狸下絵》河鍋暁斎記念美術館蔵



《文盲星之図》河鍋暁斎記念美術館蔵



河鍋暁斎(一八三一〜一八九)は、江戸から明治時代前半に活躍した絵師です。確かな画技と古典学習に支えられ、神仏、美人、風俗、鳥獣など様々な画題を、ユーモアや風刺、妖艶さをも伴う画風で、肉筆画・版画・版本などの形式を問わず描き、その多彩さは、何でも描ける」と喝采されました。そうした画業の根底には、狩野派としての研鑽・矜持があることが、近年再確認されています。暁斎は七歳で浮世絵師の歌川国芳(一七九七〜一八一)から絵を学び、十歳で狩野派に入門、早くも十九歳で修業を終えました。浮世絵と狩野派、二つの流れに与したことが、彼の画業をより彩り鮮やかなものにしていくのです。

大阪で初の河鍋暁斎展となる本展は、暁斎の曾孫・河鍋楠美氏が創設し、館長を務める公益財団法人河鍋暁斎記念美術館の所蔵作品を中心に、暁斎旧蔵の「戯画図巻」をはじめ、香雪美術館が所蔵する狩野派、中国絵画作品にも触れつつ、正統派絵師として彼を賛える機会を創出します。本流として彼の画業を捉えることは、徹底するほど、網からこぼれるものが生じます。そこに暁斎絵画の真髄が見出されるかもしれません。

記念講演会

演題：河鍋暁斎 現代人の感性に刺さるその魅力とは？

講師：安村 敏信氏やすむら としのぶ 公益財団法人河鍋暁斎記念美術館副理事長、
静嘉堂文庫美術館館長、北斎館館長

日時：5月10日(土)14時〜15時30分

会場：中之島会館(中之島香雪美術館隣)

参加料：500円(展覧会観覧には別途入館料が必要)

定員：280名(事前申し込み・先着順)

応募方法(いずれかの方法でご応募ください)◎ウェブサイト:当館HP上の専用フォームをご確認下さい。◎往復ハガキ:1通で2名様まで応募可能。参加人数、それぞれの住所・氏名、年齢、電話番号を明記ください。返信ハガキの宛先には、代表者の住所・氏名をご記入ください。返信ハガキで参加証を郵送します。

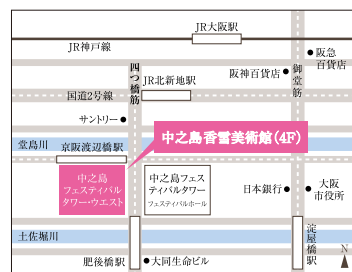
【宛先】
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4
中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階
中之島香雪美術館「河鍋暁斎」展 講演会係

【受付開始】2025年2月16日(日)

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4
中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階
TEL:06-6210-3766

◎Osaka Metro四つ橋線「肥後橋」駅4号出口、京阪中之島線「渡辺橋」駅12号出口直結◎JR「大阪」駅桜橋口より徒歩約15分
◎Osaka Metro御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」駅7号出口より徒歩約8分◎JR東西線「北新地」駅11-5出口より徒歩約8分

中之島香雪美術館
Nakanoshima Kosetsu Museum of Art



ギャラリートーク

5月2日(金)17時〜
5月17日(土)、31日(土)15時30分〜
・いずれも45分程度

次回の展覧会:特別展「土田ヒロミ写真展 ヒロシマ・コレクション」 2025年6月28日〜9月7日

【HP】



【SNS】

